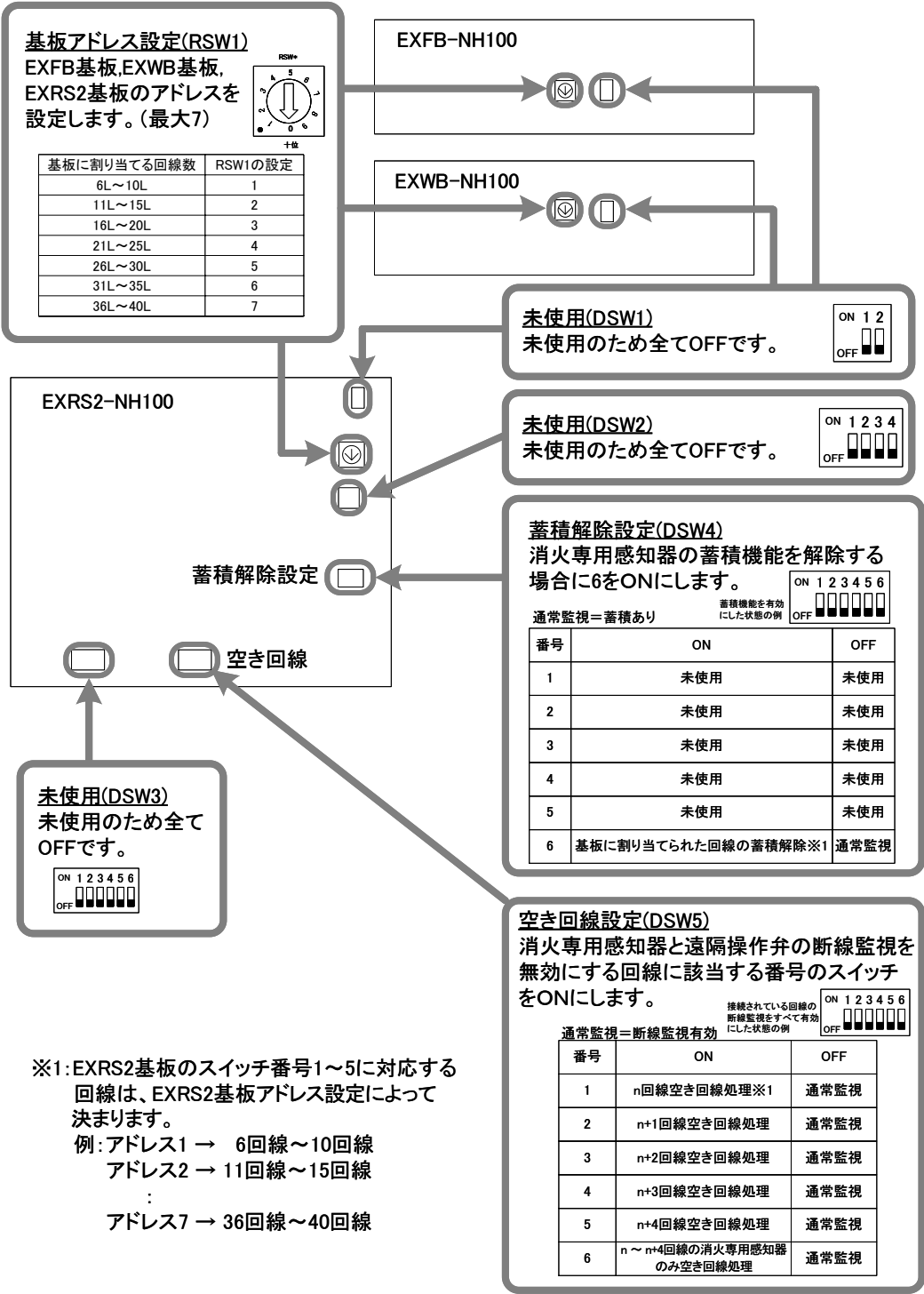


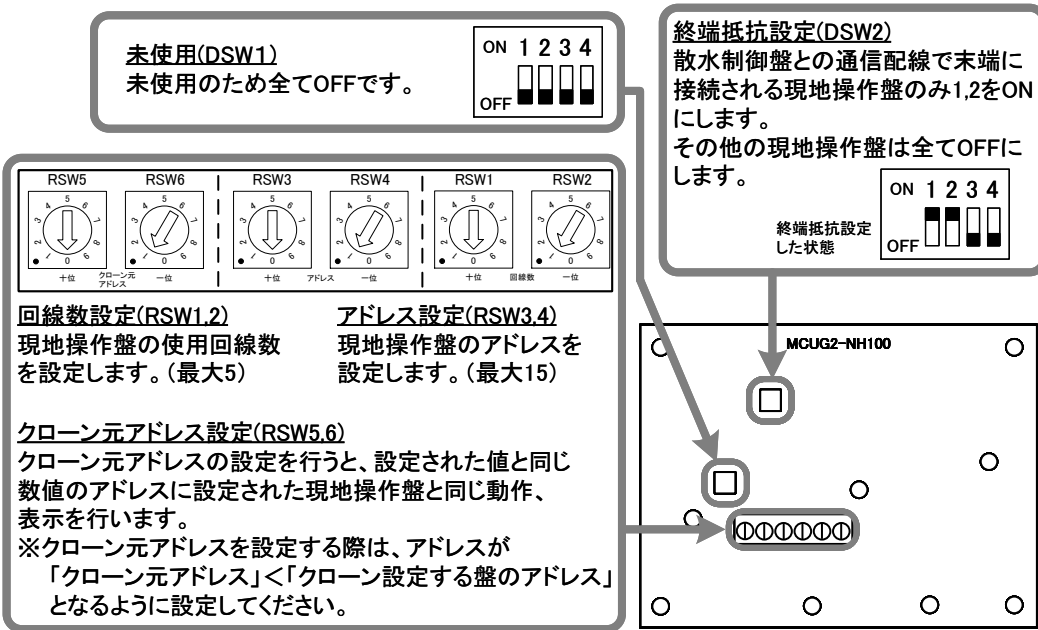


■拡張基板のすべてのスイッチの設定は、工場出荷時に物件の仕様に合わせて設定済みのため、現場で設定する必要はありません。

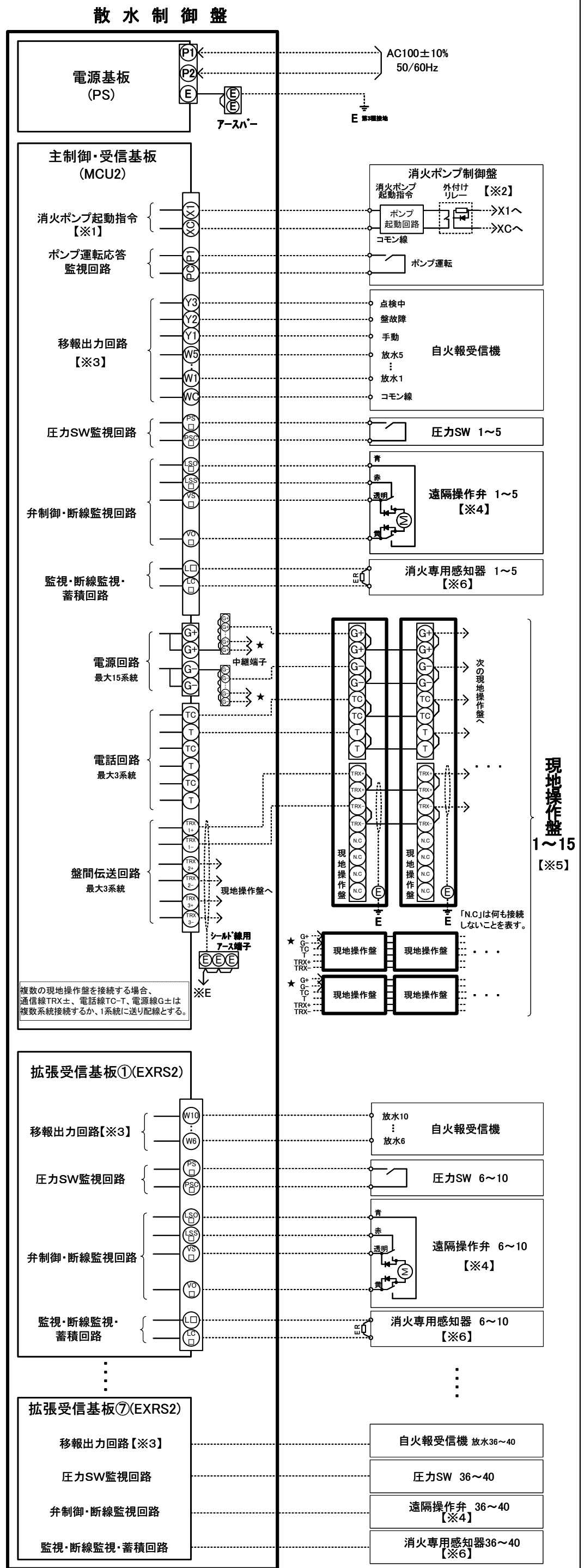


スイッチによる各種設定(現地操作盤)

■MCUG2基板のすべてのスイッチの設定は、工場出荷時に物件の仕様に合わせて設定済みのため、現場で設定する必要はありません。



接続図



接続条件

- 【※1】消火ポンプ起動指令は有電圧です。  
（オプションリレーが組み込まれた製品の場合は無電圧となります。）  
XC（＋）、X1（－） DC24V 100mA
- 【※2】オプションリレーが組み込まれていない製品で、ポンプ起動指令を無電圧にする場合、消火ポンプ制御盤にて外付けリレーを設けてください。  
コイル電圧 DC24V
- 【※3】移報端子の定格接点容量 DC24V 1A以下  
1つの移報端子に2つ以上の機器は接続できません。
- 【※4】遠隔操作弁 DC24V 140mA ※同時動作台数は1台です。
- 【※5】現地操作盤は最大15台まで接続可能です。
- 【※6】消火専用感知器  
L（＋）、LC（－） DC24V 50mA  
消火専用感知器は1回線あたり最大20個（煙感知器の場合30個）まで接続可能です。

電源投入時の注意事項

予備電源が接続されていることを確認してからAC電源を入れてください。  
予備電源は以下の手順で接続してください。  
①ヒューズ(F3)を取り外す。  
②予備電源を散水制御盤内の予備電源端子に接続する。  
③主電源(電源スイッチ)をONにする。  
④ヒューズ(F3)を取りつける。  
電源を立ち上げると、「移報遮断スイッチ」灯、「制御弁遮断スイッチ」灯が点灯し、「スイッチ注意」灯が点滅します。  
このままでは、火災発生時や停電時に散水制御盤・現地操作盤が正常な動作を行うことができません。正常な監視状態に戻すには、各スイッチの遮断状態を解除してください。



濡れた手で散水制御盤・現地操作盤の内部に触れないでください。  
感電のおそれがあります。

絶縁抵抗・絶縁耐力試験試験を行うときの取り扱い



絶縁抵抗試験・絶縁耐力試験を行うときには、PS基板のアース端子「E」とキャビネットの接続を取り外してください。  
取り外さない場合、散水制御盤・現地操作盤を破壊するおそれがあります。

- ① 工場から出荷された直後はPS基板のアース端子「E」とキャビネットが接続されています。  
② 絶縁抵抗・絶縁耐力試験を行う前にこの接続を取り外し、低圧テストで絶縁抵抗が劣化していないことを確認してから試験を行ってください。  
③ 絶縁抵抗・絶縁耐力試験が終了したときはこの接続を元に戻してください。

保守音響停止の方法

火災音響・異常音響は後続再鳴動方式ですので、散水制御盤の状態に変化があると音響は再鳴動します。  
保守点検時に連続停止をする場合は下記の操作を行ってください。

- 保守音響停止の設定  
①「音響停止」スイッチを3秒以上押し続けてください。  
②「音響停止スイッチ」灯(赤)が点灯し、音響が鳴動停止に設定されます。
- 保守音響停止の解除  
「音響停止」スイッチを押して下さい。保守音響停止状態が解除されます。



予備電源は、端子接続になっています。端子接続の場合、＋、－を絶対に間違わないようにしてください。予備電源を発熱・破裂させる原因となります。



各端子への外線接続は、所定の定格容量・極性に従って正しく行ってください。誤った場合、故障や発火の原因となります。



ヒューズは、必ず決められた容量のものを使用してください。  
それ以外のものを使用した場合、故障や発火の原因となります。



アースを確実に接続してください。接続しないと、漏電時に感電するおそれがあります。



電源はAC100V専用です。接続前に入力電圧を確認してください。  
AC100V以外の電源は絶対に接続しないでください。  
故障の原因となります。



電源（AC100V）接続時は、感電防止のため、ブレーカを遮断してから作業を行ってください。電源端子に設けてあるカバーは接続完了後、元どおりに取り付けてください。



予備電源を取り付けるとき、電極をショートさせないように注意してください。  
火傷のおそれがあります。